

2024年11月15日

報道関係者各位

慶應義塾大学

高齢者が抱える心理社会的な課題の解決策を模索していくために ーリアリスト評価による研究資料の収集・要約ー

慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 看護学専攻の見谷信弥（後期博士課程）、看護医療学部の深堀浩樹（教授）らの研究グループは、保健医療福祉に関連する高齢者の心理社会的な課題の解決策を、リアリスト評価を用いて検討している54件の論文の知見をまとめました。

リアリスト評価とは、英国の哲学者のバスカーを源流とするリアリズムを基盤とした社会科学の研究方法で、特に欧州では幅広く活用されています。このリアリスト評価は、複雑な要素が影響する心理社会的な課題に対する解決策の開発・評価・改善・普及や政策の立案に役立つとされています。その理由は、解決策がもたらす結果に着目するだけでなく、その解決策が効果的である状況や、よい結果をもたらすために必要となるメカニズムを合わせて明らかにすることができる方法であるためです（図1）。本研究グループでは、高齢化により家族形態の変化や認知症の高齢者の増加など、複雑な要素に影響される課題が山積している日本・アジアにおいても、リアリスト評価を用いた解決策の開発を促進することが有効と考え、本研究に取り組みました。

本研究を通して、研究グループは、リアリスト評価により高齢者の心理社会的な課題の解決策を検討して丁寧な評価を行うには、多くの専門的な人材や資金を必要とすることを指摘しました。今後リアリスト評価を用いて高齢者が抱える心理社会的な課題の解決策を検討するうえで、本研究が基礎的な資料となることが期待されます。

本研究グループは、上智大学の大河原啓文（助教）、東京女子大学の榎原哲也（教授）、慶應義塾大学の春田淳志（教授）から構成されています。研究成果は2024年8月30日に、学術誌BMJ Openに出版されました。

1. 研究背景

超高齢社会では、高齢者の保健医療福祉に関連する心理社会的な課題が増えています。それらの課題には、独居世帯や夫婦二人世帯の増加といった家族形態の変化や認知症の高齢者の増加など、複雑な要素が影響しています。そうした課題への効果的な改善策を開発する手法として、リアリズム（注1）を基盤とするリアリスト評価（注2）が注目されています。研究グループは、高齢者が抱える心理社会的な課題の解決策を検討するには、リアリスト評価は一つの有力な手段になりえると考えています。そこで、保健医療福祉に関連する高齢者の心理社会的な課題の改善策について、リアリスト評価を用いて検討している論文を収集し、その内容をまとめました。

2. 研究内容・成果

スコーピングレビュー（注3）と呼ばれる手法を用いて、54件の論文を収集し、それらの内容をまとめました。リアリスト評価を用いて解決を目指していた心理社会的課題には、「認知症ケアの向上」、「高齢者の救急搬送・入院の回避と入院期間の短縮」、「社会的孤立や孤独による悪影響の予防」など、さまざまな課題が含まれていました（表2）。28件（51.9%）の研究には、統計を用いて数値を処理す

る手法とインタビューの両方が活用されていました。半数以上の論文（57.4%）が英国の論文でした（表 1）。

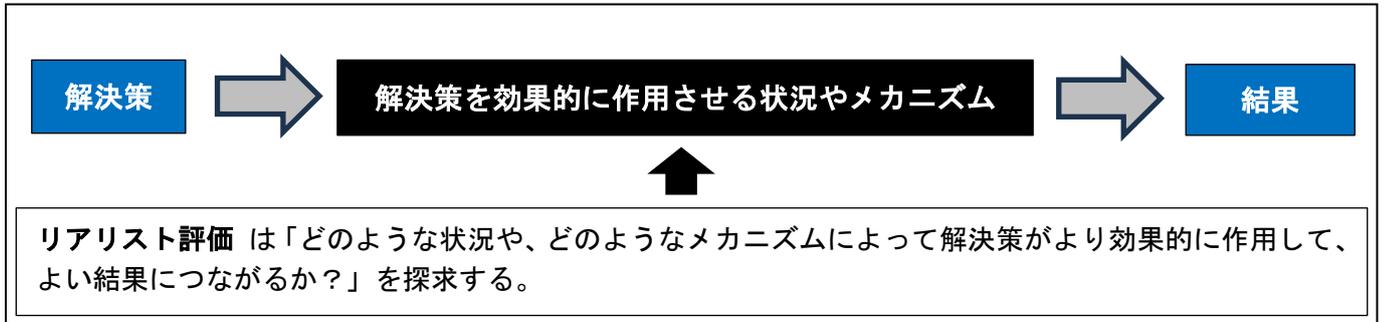


図 1 リアリスト評価とは？（研究チームにより作成）

	N	(%)
出版国 (n=54)		
英国	31	(57.4)
豪州	8	(14.8)
カナダ	4	(7.4)
オランダ	4	(7.4)
デンマーク	2	(3.7)
その他*	5	(9.3)
研究手法 (n=54)		
混合研究法	28	(51.9)
質的研究のみ	25	(46.2)
量的研究のみ	1	(1.9)

* ブラジル、ベルギー、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン

高齢者の救急搬送・入院の回避と入院期間の短縮	(20.4)
認知症ケアの向上	(20.4)
高齢者施設などでの組織変革の促進	(18.5)
高齢者の自立や日常生活の支援の促進	(14.8)
住み慣れた場所での療養生活の支援	(13.0)
高齢者の終末期ケアの向上	(13.0)
高齢者の転倒予防の促進	(11.1)
高齢者の家族の介護負担の軽減	(9.3)
高齢者の適切な内服の促進	(9.3)
社会的孤立や孤独による悪影響の予防	(9.3)
慢性疾患の悪化の予防	(7.4)

3. 今後の展開

54 件の論文をまとめることで、リアリスト評価が特に英国で実施されており、高齢者の心理社会的な課題の解決策を検討する際に幅広く用いられていることが確認できました。研究グループでは、リアリスト評価による研究は、統計とインタビュー等のデータ解析などに多くの専門的人材や時間を要するため、実施には十分な人的資源や資金の確保が必要であることを示唆しています。今後もわが国やアジア諸国では高齢化の進行が予想されています。それらの国々の医療・介護に関する研究者、国や地方の政策立案者らが、リアリスト評価により高齢者が抱える心理社会的課題について今後検討していくうえで、本研究は貴重な資料となることが期待されます。

<用語の解説>

(注1) リアリズム

英国の哲学者であるバスターを源流とし、現実の世界がどのように理解可能かについて説明する哲学の一つです。リアリズムでは、観察された客観的なデータと、人の経験などの解釈によって現実を理解しようとしています。

(注2) リアリスト評価 (RE)

1990年代に英国の社会学者であるポーソンとティリーが開発した社会科学の研究方法です。対象とする解決策(介入や政策)の結果や作用機序を評価します。Context(解決の必要がある課題が発生する時の状況)、Mechanism(解決策が作用する機序)、Outcome(解決策によりもたらされる結果)といった概念を用いて、その解決策がどうすればより効果的に作用するかについて説明し、理論化します。より説得力のある理論を作ることが、解決策の立案や見直しに役立つと期待され、近年では保健医療福祉の分野でも使われる機会が増えています。

(注3) スコーピングレビュー

ある研究領域の論文やさまざまな種類の資料・情報について系統的に検索した上で網羅的に収集し、その研究領域の主要な概念や知見を素早く概観(マッピング)できるようにするための文献収集の方法です。その研究領域でまだ解明されていない範囲(ギャップ)を特定できることがこの方法の強みとされています。

<特記事項>

本研究は以下の支援を受けて行われました。

日本学術振興会(JSPS): No. JP20H04024

JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム(JST SPRING): No. JPMJSP2123

<論文情報>

【タイトル】 Characteristics of the studies using realist evaluation to assess interventions that address psychosocial healthcare issues in older adults: A scoping review

【日本語タイトル】 高齢者に関する心理社会的な保健医療福祉に関連する課題を改善する介入の評価にリアリスト評価を用いた研究の特徴: スコーピングレビュー

【著者】 Shinya Mitani, Hirofumi Ogawara, Junji Haruta, Tetsuya Sakakibara, Hiroki Fukahori

【雑誌名】 BMJ Open

【DOI】 <https://doi.org/10.1136/bmjopen-2023-078256>

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、科学記者会、各社科学部等に送信させていただいております。

研究内容に関するお問い合わせ:

慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 看護学専攻 後期博士課程 見谷信弥 (みたにしんや)

電話: 0466-49-6200 Email: shinya_mitani@keio.jp

本リリースの配信元:

慶應義塾広報室(豊田) TEL: 03-5427-1541 FAX: 03-5441-7640

Email: m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>